

公立大学法人長野大学

令和4年度 業務実績に関する評価書

令和5年8月

上田市公立大学法人評価委員会

## ◆ 目 次

I	令和4年度の業務実績評価について	3
II	評価結果	
1	全体評価	4
2	大項目別評価	6
3	項目別の事業単位・指標単位評価	7

### 上田市公立大学法人評価委員会 委員

役職	氏 名	所 属・職 名
委員長	たむら しげる 田村 秀	長野県立大学グローバルマネジメント学部 教授
委員長職務代理者	とりい のぞみ 鳥居 希	株式会社バリューブックス 取締役
委 員	さとう あきお 佐藤 明生	元信州大学大学院 教授・学長補佐
委 員	しろした とおる 城下 徹	城下工業株式会社 代表取締役
委 員	にしまき あつこ 西牧 敦子	西牧敦子税理士事務所 税理士

# I 令和4年度の業務実績評価について

上田市公立大学法人評価委員会は、地方独立行政法人法に基づき、「業務実績の評価に関する基本的な考え方」及び「公立大学法人長野大学 各事業年度の業務実績評価（年度評価）実施要領」により、公立大学法人長野大学（以下「法人」という。）の令和4年度における業務実績について、評価を行った。

## 1 評価に関する基本的な考え方

- (1) 評価は、教育研究の特性、自主性、自律性に配慮しつつ、法人の継続的な質的向上に資するものとする。
- (2) 評価は、中期目標・中期計画の達成状況を踏まえ、法人の業務実績全体について総合的に行う。
- (3) 評価は、一連の過程を通じて、法人の状況を分かりやすく示し、社会への説明責任を果たすものとする。
- (4) 評価は、法人が自主的に行う組織・業務全般の見直しや次期の中期目標・中期計画の検討に資するものとする。
- (5) 評価の仕組みについては、必要に応じて工夫・改善を行う。

## 2 評価方法

年度評価は、その目的を効率的かつ効果的に達成するため、法人がその業務実績に基づいて行う自己評価結果を踏まえ、項目別に評価のうえ、中期計画の進捗状況について総合的な評価（全体評価）を行った。

### ・全体評価

項目別評価の結果を踏まえ、中期目標の達成に向けた中期計画全体の進捗状況を総合的に勘案して評価を行った。

### ・大項目別評価

事業単位及び指標単位評価の結果を踏まえ、中期計画における5つの大項目（8区分）ごとの進捗状況について評価を行った。

### ・項目別評価

法人から提出された業務実績報告書について、法人関係者からのヒアリング等によって検証のうえ、事業単位及び指標単位毎の実施状況または達成状況を確認し、評価を行った。

評価区分		評定	評 語	評価の目安
項目別評価	事業単位評価	a	年度計画を達成	上回る／十分な実施
		b	年度計画を概ね実施	実施
		c	年度計画を十分に実施せず	下回る／実施が不十分
		d	年度計画を大幅に下回る	特に劣る／実施せず
	指標単位評価	a	年度計画を達成	達成率 100%以上
		b	年度計画を概ね実施	達成率 80%以上 100%未満
		c	年度計画を十分に実施せず	達成率 60%以上 80%未満
		d	年度計画を大幅に下回る	達成率 60%未満
	大項目別評価	A	中期計画の進捗は順調	大項目別（8区分）に、中期計画の進捗状況について、事業単位評価及び指標単位評価から総合的に勘案し、評価
		B	中期計画の進捗は概ね順調	
		C	中期計画の進捗はやや遅れている	
		D	中期計画の進捗は遅れている	
全体評価	中期計画の進捗は順調			中期計画全体の進捗状況について、項目別評価から総合的に勘案し、評価
	中期計画の進捗は概ね順調			
	中期計画の進捗はやや遅れている			
	中期計画の進捗は遅れている			

## Ⅱ 評価結果（全体評価／大項目別評価／事業単位・指標単位評価）

### 1 全体評価

#### （1）評価結果

「中期計画の進捗は概ね順調である」

#### （2）評価理由

##### ア 総括

学部学科再編と施設整備に向けたロードマップ、施設整備基本計画、財源計画をまとめるなど、大学改革の実現に向けた取り組みが進捗しており、今後のより一層の事業展開を期待している。

また、教員の年度別業績評価制度や専門業務型裁量労働制が導入され、計画どおり着実に進捗しており、評価できる。

令和4年度も新型コロナウイルス感染症対策を講じる中での大学運営であったが、今までの経験を生かし、適切な環境の中でそれぞれの事業を行ったと見受けられる。今後は単に、新型コロナウイルス感染症の流行前に戻るのではなく、地域の期待に応える公立大学として発展されていくことを期待する。

##### イ 今後に対する意見

（ア）選択式の授業アンケートが導入されたことは評価できるが、アンケートに対する教員の懸念、回答率の低さや科目間の回答率のばらつきなど課題が多い。まずは、教員がアンケートの趣旨を正しく理解し、回答率の低さも含めて結果を真摯に受け止め、分析すべきである。そのうえで今後は大学・各教員が意見を出し合い、より意義と実行力のある方法を検討・実行していくことを期待する。

（イ）学生募集と学生選抜については、長野大学を第1希望とする入学者数を確保することが重要である。大学本来の魅力を増すこと、長野大学の良い点を積極的に宣伝する事により第1希望の志願者数を増やすなど、より学生を確保するため、積極的な広報に加え、継続的に入試内容を見直し、改善に努めてもらいたい。

（ウ）コンプライアンスについては、ハラスメントや交通違反などの重大なコンプライアンス違反を重く受け止め、今回は厳しい評価を行った。事案発生後の対応、対策は措置されていると認められるが、今後も引き続き、再発防止の徹底を強く求める。

（エ）国際交流では、学生の海外研修・留学や教員の共同研究を推進するため、海外大学との交流に取り組むことが重要である。理工系学部設置後の国際協力や交流を見据え、また魅力ある留学プログラムは学生募集にもつながることを意識して、目標高く取り組むことを期待する。

（オ）大学の自己評価において、エビデンスを元に評価基準を踏まえ評価されたとは確認できないものが散見された。法改正により、評価委員会による年度評価が廃止されることとなったが、今後は第三者の理解を意識して、より丁寧な自己評価を行うことが必要である。

（カ）これまで課題であった役員等の女性比率について、令和4年度については役員18%（11人中2人）、経営審議会0%（11人中0人）、教育審議会0%（18人中0人）であった。令和4年度中に数値目標（各委員会15%以上）を設定しているが、それが達成されたとしてもなお、大きなジェンダーバランスの偏りは残る。更なる施策を行い、大学の魅力に転換できるような体制になっていくことに期待する。

## 〈重点事項への取組について〉

### 【教育】 B 中期計画の進捗は概ね順調

新型コロナウイルス感染症に考慮した「教育」活動を実施し、相応の対応を行った。

選択式の授業アンケートを行うなど、評価できる点であるが、今後、このアンケート結果などを活用することや、さらなるチェック体制の整備に期待する。

大学院の運営体制については、引き続き整備を進めるとともに、入学定員割れしていること、また内部進学者がいないことを真摯に受け、学内外への広報活動の充実させることも含め、教育体制の整備を推進することを期待する。

### 【研究】 B 中期計画の進捗は概ね順調

学長裁量による独自の研究助成制度を活用するなど、研究に対する姿勢や研究助成金獲得に向けた動き等、相応な対応を行っている。

研究活動や研究成果、論文等を大学ホームページに掲載するなど情報発信に努めている。

法人による自己点検時点で、令和4年度の研究指標（論文数など）がとりまとめられていなかった点は問題であり、今後、毎年度、定期的に情報を集めるなど、大学の研究力の把握を迅速に行う仕組みを構築する必要がある。

### 【地域貢献】 B 中期計画の進捗は概ね順調

地域貢献や学外窓口の中心的存在として「地域づくり総合センター」の組織強化に努めている姿勢がみえる一方で、産学官連携の拠点としても大きな役割を担っていくべきであり今後の地域貢献活動の発展に期待する。

地域との連携による運営姿勢は大きな特徴であり、様々な取組が行われ効果を生んでいることを評価する。特に多数実施されているフィールドにおける学生の教育活動は、そのまま地域貢献にもつながっていると認められる。

地域づくり総合センターの機能強化を進めるとともに、地元企業、団体等との連携や地域貢献活動を推進することにより、地域により開かれた役に立つ大学の窓口として、今後の取り組みに期待する。

### 【大学運営の改善】 B 中期計画の進捗は概ね順調

理工系学部設置と既存学部再編など、大学改革の実現に向け、着実に事業を進めており、理工系学部設置という大改革にあたり、教学に高い実績のある理工系出身の新学長を迎えられ、また理工系学部長候補の教員も採用された。学部再編という大事業の成功に向けて、そのリーダーシップが発揮されることを大いに期待する。

理事長学長の積極的な政策的ミーティングや専門業務型裁量労働制の導入、また内部監査及びその是正が適切に行われており、評価できる。

一部コンプライアンスが徹底できてない事案が見受けられ、今後さらなる適正な内部統制を望む。

## 2 大項目別評価

### (1) 大項目別評価結果（一覧）

大項目（8区分）		項目	項目別評価結果 ※(1)				評価結果 ※(2)
			a	b	c	d	
第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標	1 教育に関する目標	事業	57	9	47	1	B
		指標	1		1		
	2 研究に関する目標	事業	4		4		B
	3 地域貢献、地域の人材育成等に関する目標	事業	9		9		B
	4 国際交流に関する目標	事業	3	1	1	1	B
第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標	事業	13	3	10		B	
第4 財務内容の改善に関する目標	事業	19	2	17		B	
第5 自己点検・評価及び情報公開の推進に関する目標	事業	4		4		B	
第6 その他業務運営に関する目標	事業	10		8	2	B	
合計		—	120	15	101	4	0
(参考) 公立大学法人長野大学 自己評価		—	120	31	89	0	0
(参考) 令和3年度業務実績評価			122	16	102	4	0
(参考) 令和2年度業務実績評価			120	14	100	6	0
(参考) 令和元年度業務実績評価		—	101	16	71	14	0
(参考) 平成30年度業務実績評価		—	93	17	56	17	3
(参考) 平成29年度業務実績評価		—	104	9	69	25	1

※(1) 事業単位評価／指標単位評価

a：年度計画を達成

b：年度計画を概ね実施

c：年度計画を十分に実施せず

d：年度計画を大幅に下回る

※(2) 大項目別評価

A：中期計画の進捗は順調

B：中期計画の進捗は概ね順調

C：中期計画の進捗はやや遅れている

D：中期計画の進捗は遅れている

### 3 項目別の事業単位・指標単位評価

#### 第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

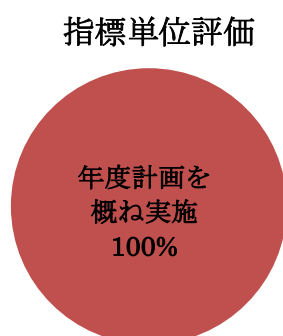
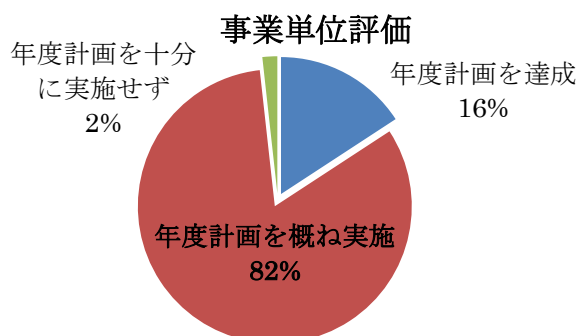
##### 1 教育に関する目標を達成するための措置

評価	評価基準
B	中期計画の進捗は概ね順調である。

##### (1) 評価理由

58項目のうち、9項目が「a評価」(年度計画を達成)、48項目が「b評価」(年度計画を概ね実施)、1項目が「c評価」(年度計画を十分に実施せず)の評価結果となり、これらを総合的に勘案すると、B評価(中期計画の進捗は概ね順調)が相当である。

	項目数	a	b	c	d
		年度計画を達成	年度計画を概ね実施	年度計画を十分に実施せず	年度計画を大幅に下回る
事業単位 評価結果	57	9	47	1	0
	構成比	(16%)	(82%)	(2%)	(0%)
指標単位 評価結果	1	0	1	0	0
	構成比	(0%)	(100%)	(0%)	(0%)



##### (2) 評価できる点 (No. 年度計画番号を示す。)

- (ア) 長年の課題であった、全教員対象の年度別業績評価が実施され、実施後の対応 (PDCA) などについても実行され、更に要綱、基準の見直しなどもなされ、教員評価体制が整ったことを評価する。(No. 19)
- (イ) 学生の心身両面の状況について、昨年度と比較して、実施結果及びフォロー等で大きく前進していることを評価する。一定程度、不調な学生がいるなかで、他機関との連携・相談がとれる体制となっている。健康チェックの回収率が改善し、学生の状況を把握できる環境が整いつつある。適切な支援に結びつくよう、引き続き、努めてもらいたい。(No. 30)

##### (3) 課題となる点、その他指摘すべき事項 (No. 年度計画番号を示す。)

- (ア) 授業改善に向けて議論の土台ができ始めていることが確認でき、かつ、選択式アンケートの実施により、授業内容の改善に向けた施策 (手法) の振り返りも可能な状況となったので、今後は大学・各教員が意見を出し合って、より意義と実行力のある方法を検討・実行していくことを期待する。(No. 14)

## 2 研究に関する目標を達成するための措置

評価	評価基準
B	中期計画の進捗は概ね順調である。

### (1) 評価理由

4項目のうち、4項目が「b評価」(年度計画を概ね実施)の評価結果となり、これらを総合的に勘案すると、B評価(中期計画の進捗は概ね順調)が相当である。

	項目数	a	b	c	d
		年度計画を達成	年度計画を概ね実施	年度計画を十分に実施せず	年度計画を大幅に下回る
事業単位	4	0	4	0	0
評価結果	構成比	(0%)	(100%)	(0%)	(0%)



### (2) 評価できる点 (No. 年度計画番号を示す。)

(ア) 株式会社コーセーの受託研究のように産業創出・起業に繋がりそうな研究ができたことは素晴らしい。(No. 61)

### (3) 課題となる点、その他指摘すべき事項 (No. 年度計画番号を示す。)

(ア) 研究している内容をサービス展開し、起業を考えている学生を支援するような、研究開発から産業創出につながる仕組みを検討してもらいたい。(No. 61)

(イ) 法人による自己点検時点で、令和4年度の研究指標(論文数など)がとりまとめられていなかった点は問題であり、今後、大学の研究力の把握を迅速に行う仕組みを構築する必要がある。(No. 62)

(ウ) 教員業績評価の研究領域の評価において、E評価(改善を要する)教員が、令和3年度10人から、令和4年度で5人に改善しているが、未だに改善を要する教員がいる。(No. 62)



### 3 地域貢献、地域の人材育成等に関する目標を達成するための措置

評価	評価基準
B	中期計画の進捗は概ね順調である。

#### (1) 評価理由

9項目のうち、9項目が「b評価」(年度計画を概ね実施)、の評価結果となり、これらを総合的に勘案すると、B評価(中期計画の進捗は概ね順調)が相当である。

	項目数	a	b	c	d
		年度計画を達成	年度計画を概ね実施	年度計画を十分に実施せず	年度計画を大幅に下回る
事業単位	9	0	9	0	0
評価結果	構成比	(0%)	(100%)	(0%)	(0%)



#### (2) 評価できる点 (No. 年度計画番号を示す。)

(ア) メルシャン、三菱地所等大手企業との連携事業は大学としても宣伝要素や外部資金対象としても重要であり、評価する。(No. 76)

#### (3) 課題となる点、その他指摘すべき事項 (No. 年度計画番号を示す。)

(ア) 地域づくり総合センターは、教育と研究の情報集約の役目や地域とのつながりだけでなく、企業との窓口であり、産学官連携の拠点としても大きな役割を担っていくべきであり、地域により開かれた役に立つ大学の窓口として今後の取り組みに期待している。(No. 65)

(イ) 委員委嘱及び講師派遣件数について、昨年より数値が下がっているため、理由の詳細な分析とともに、大学の地域貢献活動が活発になるよう、取り組んでもらいたい。委員委嘱 R3:121件 R4:70件、講師派遣 R3:118件 R4:94件 (No. 66)

(ウ) researchmapの更新が徹底されておらず、10年以上更新されていない教員が複数名いる。(No. 76)

(エ) 地域大学として地域の中小零細企業との連携に更に力を入れて、その事実を大きく地域に表明していくことは、地域大学であることを強く市民に印象付けることとなり、長期的には大変重要なことと考える。(No. 76)

(オ) 北欧の社会福祉施設や児童関連施設の見学・研修を希望している学生が複数いるようなので、就職支援と合わせた研修プログラムをつくることによって、入学希望者数の増加、大学の価値創造にもつながるのではないかと。(No. 80)

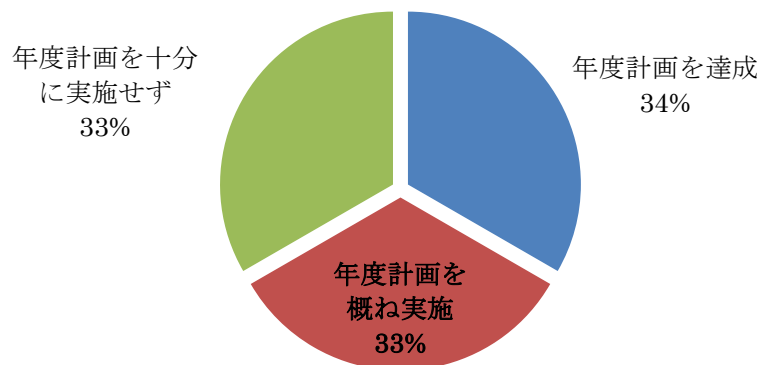
#### 4 国際交流に関する目標を達成するための措置

評価	評価基準
B	中期計画の進捗は概ね順調である。

##### (1) 評価理由

3項目のうち、1項目が「a評価」(年度計画を達成)、1項目が「b評価」(年度計画を概ね実施)、1項目が「c評価」(年度計画を十分に実施せず)の評価結果となり、これらを総合的に勘案すると、B評価(中期計画の進捗は概ね順調)が相当である。

	項目数	a	b	c	d
		年度計画を達成	年度計画を概ね実施	年度計画を十分に実施せず	年度計画を大幅に下回る
事業単位	3	1	1	1	
評価結果	構成比	(34%)	(33%)	(33%)	(%)



##### (2) 評価できる点 (No. 年度計画番号を示す。)

(ア) 留学生支援など、きめ細かな対応を行っていると評価する。(No. 81)

##### (3) 課題となる点、その他指摘すべき事項 (No. 年度計画番号を示す。)

(ア) 学生の海外研修・留学や教員の共同研究を推進するため、海外大学との交流に取り組むことが重要であり、外部要因により、クライストチャーチ工科大学との協定が難しい状況であれば、他の手法を検討する等、柔軟な対応が求められる。(No. 80)

(イ) 今後は、理工系の国際協力が理工系学部設置後、速やかに実施されることを意識して、目標高く取り組むことを期待したい。(No. 80)

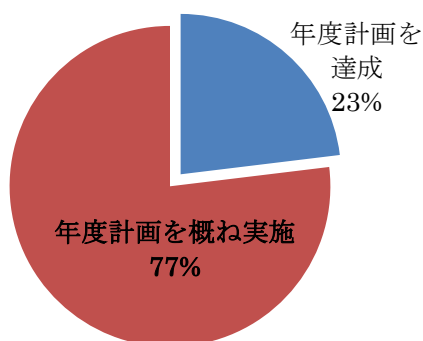
### 第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

評価	評価基準
B	中期計画の進捗は概ね順調である。

#### (1) 評価理由

13項目のうち、3項目が「a評価」(年度計画を達成)、10項目が「b評価」(年度計画を概実施)の評価結果となり、これらを総合的に勘案すると、B評価(中期計画の進捗は概ね順調)が相当である。

	項目数	a	b	c	d
		年度計画を達成	年度計画を概ね実施	年度計画を十分に実施せず	年度計画を大幅に下回る
事業単位	13	3	10	0	0
評価結果	構成比	(23%)	(77%)	(0%)	(0%)



#### (2) 評価できる点 (No. 年度計画番号を示す。)

- (ア) 毎月、理事長学長ミーティングが開催され、理工系学部設置に向けた政策形成などが進んでいる。(No. 83)
- (イ) 内部監査及びその是正が適切に行われており、評価できる。(No. 86)
- (ウ) 長年の懸案事項であった専門業務型裁量労働制が導入されたことを評価する。(No. 90)

#### (3) 課題となる点、その他指摘すべき事項 (No. 年度計画番号を示す。)

- (ア) 職員の業績評価の準備が整ったとのことは評価するが、かなり前からの課題であり、令和5年度中に早急に運用を図ってほしい。(No. 91)

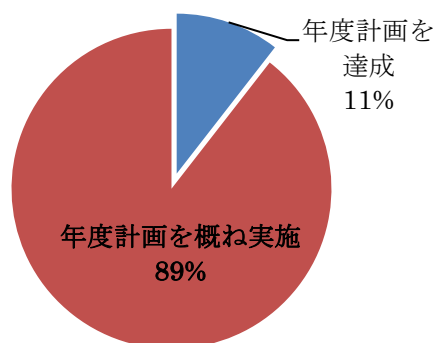
#### 第4 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

評価	評価基準
B	中期計画の進捗は概ね順調である。

##### (1) 評価理由

19項目のうち、2項目が「a評価」(年度計画を達成)、17項目が「b評価」(年度計画を概ね実施)の評価結果となり、これらを総合的に勘案すると、B評価(中期計画の進捗は概ね順調)が相当である。

	項目数	a	b	c	d
		年度計画を達成	年度計画を概ね実施	年度計画を十分に実施せず	年度計画を大幅に下回る
事業単位	19	2	17	0	0
評価結果	構成比	(11%)	(89%)	(0%)	(0%)



##### (2) 評価できる点 (No. 年度計画番号を示す。)

- (ア) 学生募集活動として、ライブでの授業配信や動画の整備がなされ、広報が充実してきており、評価できる。(No. 100)
- (イ) 大学ホームページからの教育研究及び地域貢献などに関わる情報発信は、令和4年度に大幅に伸びたことは高く評価できる。(No. 105)

##### (3) 課題となる点、その他指摘すべき事項 (No. 年度計画番号を示す。)

- (ア) 地元学生に大学をアピールすることは重要であるため、今後の学生募集活動の取組に期待する。(No. 102)
- (イ) 検定料収入を確保することも大事であるが、長野大学を第1希望とする入学者数を確保することが重要である。(No. 103)

## 第5 自己点検・評価及び情報公開の推進に関する目標を達成するための措置

評価	評価基準
B	中期計画の進捗は概ね順調である。

### (1) 評価理由

4項目のうち、4項目が「b評価」(年度計画を概ね実施)の評価結果となり、これらを総合的に勘案すると、B評価(中期計画の進捗は概ね順調)が相当である。

	項目数	a	b	c	d
		年度計画を達成	年度計画を概ね実施	年度計画を十分に実施せず	年度計画を大幅に下回る
事業単位	4	0	4	0	0
評価結果	構成比	(0%)	(100%)	(0%)	(0%)



### (2) 課題となる点、その他指摘すべき事項(No. 年度計画番号を示す。)

- (ア) 大学の自己評価において、エビデンスを元に評価基準を踏まえ評価されたとは確認できないものが散見された。法改正により、評価委員会による年度評価が廃止されることとなったが、今後は第三者の理解を意識して、より丁寧な自己評価を行うことが必要である。(No. 119)
- (イ) 法人による自己点検時点で、令和4年度の研究指標(論文数など)がとりまとめられていなかった点は問題であり、今後、大学の研究力の把握を迅速に行う仕組みを構築する必要がある。(No. 62 再掲) (No. 119)

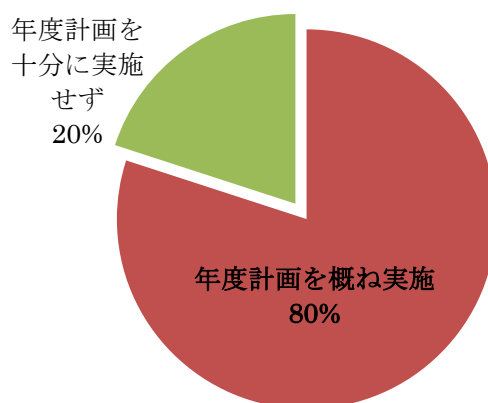
## 第6 その他業務運営に関する目標を達成するための措置

評価	評価基準
B	中期計画の進捗は概ね順調である。

### (1) 評価理由

①0項目のうち、8項目が「b評価」(年度計画を概ね実施)、2項目が「c評価」(年度計画を十分に実施せず)の評価結果となり、これらを総合的に勘案すると、B評価(中期計画の進捗は概ね順調)が相当である。

	項目数	a	b	c	d
		年度計画を達成	年度計画を概ね実施	年度計画を十分に実施せず	年度計画を大幅に下回る
事業単位	10	0	8	2	0
評価結果	構成比	(0%)	(80%)	(20%)	(0%)



### (2) 課題となる点、その他指摘すべき事項 (No. 年度計画番号を示す。)

(ア) 研究倫理や労務に対する取り組みは理解するが、ハラスメントや交通違反の重大なコンプライアンス違反が生じているためc評価とせざるを得ない。公立大学の教職員としてのコンプライアンスに対する意識向上を強く求める。(No. 124)